



主日礼拝式プログラム 8:45~10:15am



賛美

「神はひとり子を」

「私たちは一つ」

「イエスは愛で満たす」

「全世界に出て行こう」

献金

洗礼式 受洗者：野澤まゆみ

牧会祈禱&主の祈り

賛美フラ シャロンフラチーム

聖書箇所 ルカ福音書15章1節~7節 奥山夏実

メッセージ 「捜し歩く神」 関真士牧師

賛美 「語り告げばや」

主の祈り

お知らせ

- 本日、礼拝の中で、洗礼式が持たれます。受洗者：野澤まゆみさん。おめでとうございます！
- 本日12:30pm 執事会があります。
- 本日10:30am 「マタイ福音書の学び」があります。教育館2階ランディ牧師のオフィスです。
- 次週15日1pm 創造論セミナーがあります。講師：加藤文子師 カンファランスルーム。どなたもご参加ください。
- 2024年聖地旅行のパンフレットが出来ました。参加希望者は、関牧師までお知らせください。
- ウィークリーニュースに、祈りのコーナーを設けました。どうぞ、関牧師まで祈りのリクエストを送ってください。

風の吹くままに



▼ イエスさまは、タラントのたとえ話の中で、任されたタラントを十分に用いることの大切さを教えられました。そのタラントを使わないと、使ってくれる人に渡してしまうとも言われました。

私たちホノルル教会に与えられたタラント、それは何でしょうか。ハワイという土地、自然もそうでしょう。マノアという立地、会堂もそうでしょう。何よりも、集う一人ひとりの存在がタラントです。その一人ひとりに与えられているタラントを十分に活かしていきたいと思わされます。

伝道会議に参加して、他の教会の様子を知るときに、ホノルル教会のタラント、特徴も見えやすくなります。これは他と比較をして、一喜一憂するというのではなく、我が身を知るという意味においてです。

宣教の実践を考える時に大切なのは、宣教の対象者を知ること、そして教会のタラントの特徴を知ることです。私たちは、今、どこに、誰に、どのような福音を伝えるために存在しているのか。祈り求めていきましょう。

献金



会堂礼拝とオンライン礼拝が、主の御霊によって

一つとされ共に主を礼拝いたしましょう

関真士牧師

sekishinji89@gmail.com

2023年度聖句

神の命令を守ること、それが、神を愛することです。神の命令は重荷とはなりません。

Ⅰ ヨハネの手紙 5章3節

スモールグループの心得

心を傾けて聴こう、理解しよう、共感しよう。教えない、否定しない、批判しない。そのままを受け入れましょう。



分かち合いのポイント

①イエスの心とパリサイ人たちの心は違います。その違いはどこから生じるのでしょうか。

②野に残された99匹の気持ち。「私たちだって…」というイエスを引き止めようとする心を、私たちはどのように乗り越えることが出来るのでしょうか。

③祈りましょう。存在の尊さが見える、イエスの目を与えてください。失われた者の心の叫びが聞こえる、イエスの耳を与えてください。見つかるまで捜すという、イエスの足を与えてください。羊を担ぐという、イエスの力を与えてください。人がイエスから離れていくときの、イエスの悲しみの心を与えてください。捜して捜して捜し続ける、イエスの諦め切れない心を与えてください。そして、失われた者を見つけたときの、イエスの喜びの心を与えてください。

さて、取税人たちや罪人たちがみな、話を聞こうとしてイエスの近くにやって来た。すると、パリサイ人たち、律法学者たちが、「この人は罪人たちを受け入れて、一緒に食事をしている」と文句を言った。そこでイエスは、彼らにこのようなたとえを話された。「あなたがたのうちのだれかが羊を百匹持って、そのうちの一匹をなくしたら、その人は九十九匹を野に残して、いなくなった一匹を見つけるまで捜し歩かないでしょうか。見つけたら、喜んで羊を肩に担ぎ、家に戻って、友だちや近所の人たちを呼び集め、『一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけましたから』と言うでしょう。あなたがたに言います。それと同じように、一人の罪人が悔い改めるなら、悔い改める必要のない九十九人の正しい人のためよりも、大きな喜びが天にあるのです。

メッセージ中の引用聖句

ルカ19章9、10節

ホノルルキリスト教会

2207 OAHU AVENUE, HONOLULU, HI 96822

日本語部 事務所 ☎ (808) 973-4335

Email : office@honoluluchristian.church



週報



賛美の御言葉 詩篇 113篇 1～3節

ハレルヤ。主のしもべたちよほめたたえよ。主の御名をほめたたえよ。今よりとこしえまで主の御名がほめられるように。日の昇るところから沈むところまで主の御名がほめたたえられるように。